

どうなる!? 瀬谷区の未来

横浜市政策局及び「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所）のデータによると、瀬谷区は20年後の2035年には人口が現在よりも約1万3千人（約10%）減少し、約11万2千人になると推測されています。ただし、大きな変動要因が生じた場合はその予測とは異なる未来が待っているかもしれません。例えば、磯子区でも瀬谷区と同様に、将来人口予測では2015年現在で既に人口が減少していると予測されていましたが、ホテル跡地に建てられた大規模分譲マンションの建設や周辺地域での社宅の分譲マンション化が進むことで、予測とは逆に人口増となっています。瀬谷区の場合、旧上瀬谷通信施設の跡地活用がこれからの人口変動の要因になる可能性があります。

≡ 筆者の考察 ≡

前号で「瀬谷区の高齢化が進んでいる」という記事を読んで重たい気分になった方もいらっしゃると思います。高齢化の本質は何なのでしょう？
ここでは筆者が出会ったとある地域の方の言葉を紹介します。
こんな風に考えれば、少し明るい気持ちになれるのではないのでしょうか？



高齢化が問題なのか？

10年ほど前、公園管理の部署にいた際、公園愛護会の参加者向けの通信において、高齢化についての記事を執筆したことがあります。すると、その記事を読んだ戸塚区のある公園愛護会長から電話がありました。「高齢化は問題であるが、もっと問題なのは高齢化を口実に地域の活動をしないことだ。高齢化するとできないことが増えてくるが、何もできないわけではない。一人でやろうとするから大変なんだ。みんなでちょっとずつやればうまくいくんだよ」と教えていただきました。

私はその言葉に感銘を受け、実際の地域活動に体験参加させてもらうことにしました。公園に出向くと、全員が70歳以上でとても元気。「この人は広報が得意」、「この人は花をうまく育てられる」、「この人はほうきや熊手を操る」、「この人は会計専任」など、会長が会員の特技ややりたいことを把握し、少ししか活動できなくても評価する、そして一人一人が無理のない活動をできる環境づくりが行われていました。活動後、皆さんと一緒に昼食を食べながら活動についてざっくばらんに話をする機会がありましたが、その間も、「大変だ」と言う言葉は一度も聞こえてきませんでした。「皆でできることをやっていけばいいんだよ。無理はいけないよ」という会員の皆さんの少し誇らしげな表情を今でも思い出します。

編集後記

地域づくり通信は、主に班回覧でお読みいただいておりますが、これまであまり大きな反響がありませんでした。今回、人口をテーマに執筆したところ「面白い」、「もっと深く分析してほしい」、「会員に配りたい」などのお声をたくさんいただきました。今後も皆様の役に立つ情報を集め、分析し提供していきたいと考えています。人口移動や高齢化率などのデータは連合町内会エリアごとに分析することも可能です。

自治会町内会、防災、福祉保健などの活動の際にご活用をご希望の方は、右記あてご連絡ください（お申込みは連合自治会、地区社協など地域の団体単位でお願いします）。

【お問い合わせ先】

瀬谷区役所 地域振興課
地域力推進担当
TEL 045(367)5789
FAX 045(367)4423
〒246-0021
横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地
発行/平成28年1月

地域づくり通信 第26号 平成28年1月



人口から瀬谷区を読み解く Part2

前回（平成27年11月発行）の地域づくり通信では、瀬谷区の人口の変化をテーマに取り上げました。記事作成のため様々なデータを分析すると、今まで明確になっていなかった特徴的な傾向が浮かび上がってきました。



せやまる

前号ではそのすべてを取り上げることが出来ませんでした。今号では特に『転入、転出』に焦点を当て、より深い分析結果や関連する情報をご紹介します。文字が小さいところもありますがご容赦願います。

※今号の記事は、主に横浜市政策局作成の平成26年分の人口移動データをもとに作成しています。

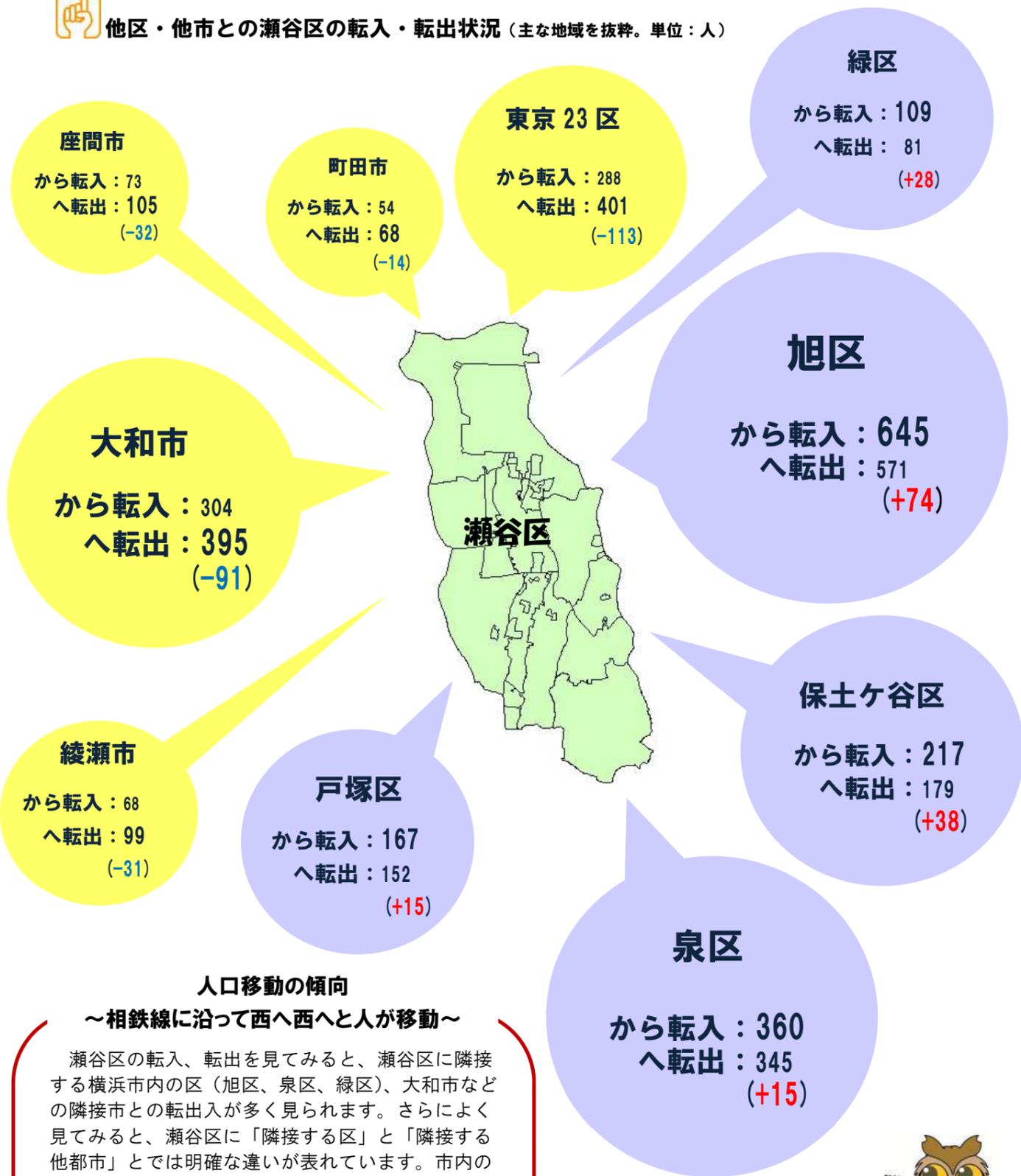
瀬谷区の人口移動

瀬谷区では、平成26年の1年間で、瀬谷区外から転入してくる人が5,395人、瀬谷区内から瀬谷区内の別の場所へ区内転居する人が2,774人いました。

横浜市18区の中では、瀬谷区は人の出入りが比較的小さい方ではありますが、区外からの転入者は瀬谷区の人口のおよそ25人に1人に相当し、区内で転居した人を含むとおよそ15人に1人に相当する数が引っ越してきていることになります。

では、区外のどのような地域と人の出入りがあるのでしょうか？
次ページで詳しく解説します！





人口移動の傾向

～相鉄線に沿って西へ西へと人が移動～

瀬谷区の転入、転出を見てみると、瀬谷区に隣接する横浜市内の区(旭区、泉区、緑区)、大和市などの隣接市との転出入が多く見られます。さらによく見てみると、瀬谷区に「隣接する区」と「隣接する他都市」とでは明確な違いが表れています。市内の他区とでは瀬谷区への転入が転出を超過し、人口増の要因となっていますが、一方で大和市など横浜市の都市とでは、転入より転出が多く、これらを差し引くと、瀬谷区内の人が市外へ流れて人口減少の要因になっているのが分かります。

視点を相鉄線沿線の区に広げてみると、西区から保土ヶ谷区、保土ヶ谷区から旭区へと、隣の区への転入超の傾向が見られ、相鉄線に沿って西へ西へと人が移動している傾向があります。

せやまるの豆知識

相鉄線沿線では人が西へ西へと移動している傾向があるけど、市の南部、京浜急行沿線の磯子区、金沢区では、横浜賀市から金沢区へ、金沢区から磯子区へ、北へ北へと移動している傾向があるんだ!



Pick Up Point! 瀬谷区の転出入の特徴とは?

Point 1

若い人が流出している!!

転出入について年齢別に見てみると、若い世代が市外に流出していることが見えてきます。特に大和市への転出は20代、30代がほぼ半数を占めています。これは、大和市に子育てに適した間取りや価格のマンションが多く供給・流通していることなどが理由となっていると推測できます。

また、瀬谷区への転入は、市内近隣区を中心に40代以降の年代がやや多い傾向が見られます。高齢化を進める要因ともなりますが、地域活動の担い手が50代～60代以降という現状を考えると、活動の予備軍が転入してきているともいえます。

また、東京23区へは特に20代が流出しており、瀬谷で育った子ども世代が進学や就職で都内に引っ越していく状況が見えてきますが、この傾向は横浜市全体で見られるものです。



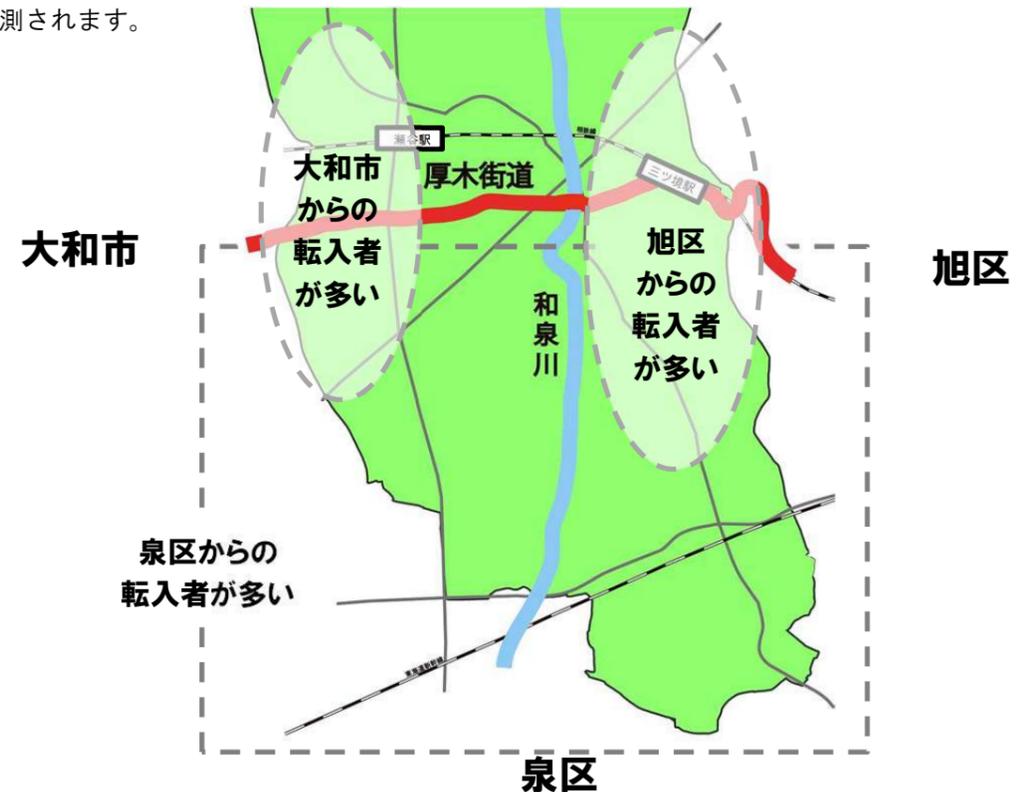
インターネットの物件サイトで中古マンションを検索すると、大和市は270件、瀬谷区は30件!!

Point 2

隣接する区・市から転入する人は元の区・市に近いところに引っ越す

たとえば大和市から転入してきた人は本郷や橋戸など大和市に近い地域に引っ越す傾向があり、逆に、旭区から引っ越してきた人は三ツ境や二ツ橋、阿久和東など旭区に近い地域に引っ越す傾向があります。

また、泉区から転入してきた人は、区の中心部を東西に走る厚木街道の南側に転入するという傾向も見られます。これらの傾向から、なるべく生活圏を変えずに転居したい人が多いと推測されます。



鉄道や道路交通網が発達する以前は、「流域圏」といって、川を中心とした兩岸や上流下流での人の行き来やそれに伴う文化や物の交流が行われてきました。近年その傾向が失われてきたと言われてはいますが、この数字からは流域圏の考え方に近い人の動きも見えてきます。

